

先週の説教から>

『ミカ① - 諸国の民よ、聞け』

武田真治牧師

ミカ書 1:1-16 ルカ福音書 16:27-31

ずっと説教では、ひとつの書を最初から最後まで続けて読んでいくことをしています。その際、出来るだけ旧約聖書と新約聖書を交互に読んでいきたいと願っています。『ヘブライ人への手紙』を読み終え、今日から旧約聖書の『ミカ書』を読み始めます。それは、今度は旧約で『預言書』を取り上げたかったことと、初めてエルサレムの都が滅ぼされユダ王国の滅亡を預言した人物がミカであり、ミカがどのような人間で、何を語ったかをご一緒に読みたいと願ったからです。

このミカについては1章1節に「ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、セレシュトの人ミカに臨んだ主の言葉。それは、彼がサマリアとエルサレムについて幻に見たものである。」とあります。これはミカ自身の言葉ではなく、後の編集者がミカについて説明している言葉で、預言者として長く働いた人物であったことが分かります。また、ここには預言者を理解するための大事な言葉があります。それは「幻に見た」です。預言者とは、神様から言葉を「預かって」語る者を指すのですが、その神様からの預かり方には2種類あります。一つは、言葉そのものを与えられる場合で、モーセやサムエルなどがそうです。もう一つが“幻”を通して示される場合です。エゼキエルや黙示録を記したヨハネなどです。ミカはそのタイプだと言われているのです。これは言葉そのものよりも画像(=今で言えば動画)を神様から示され、それを人々に言葉として伝えるというものです。預言者によっては、言葉と幻の両方で示される場合もあります。

今日の箇所はまさにミカが見た画像です。「見よ、主はその住まいを出て、降り、地の聖なる高台を踏まれる」とは、神様が天から降ってこられ、地上に立たれた時、その足が踏みつづいた建物が「聖なる高台(=バーマート、偶像を安置する神殿がある場所)」だと。これはそのような偶像礼拝に対する“裁き”です。問題は、その高台こそ「ヤコブの罪と

は何か、サマリアではないか」「ユダの聖なる高台とは何か、エルサレムではないか」と言われている点です。当時のイスラエルの2大であるサマリア神殿とエルサレム神殿の中になんと異教の偶像も多く置かれ、礼拝されている状況を、神様は見ておられる=「神はお前たちに対する証人となられる」と。故に、まもなく神様が破壊される時が来るという預言になっているのです。そして、実際にまもなくサマリアがアッシリアによって滅ぼされる出来事が起こって行くのです。

その意味でミカが見た「幻」は決して夢なのではなく、神様が示された“未来の現実”であったのです。同時に、この時のミカの言葉を聞いて人々が悔い改めたならば“起こらなかった出来事=まさに幻”になったはずだったのですが!

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 8月30日(水) 20:00
II. 8月31日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題: 守谷伝道所を覚えて
担当者: (水) 奈良 (木) 伊藤
祈りに覚える人: 真田さん 三箇さん

【教勢報告】

主日礼拝 男21 女57 計78
祈禱会 I. 男6 女3 計9 II. 男1 女8 計9
日曜学校 幼稚科8 小中科11 計19(夕涼み会)
ひつじ雲の会 男0 女3 計3

【次週主日礼拝】 9月 3日(日)

聖書: ミカ書 1:8~16
マタイによる福音書 15:16~32

説教: 「ミカ②— 人をあざむく泉」
武田真治牧師

讃美歌: 6(1)、32、57(1~4)、196(1~3)、
306(1、3、5)、75(1)、37(1)

【次週当番表】

司式: 飯田長老 奏楽: 羽倉 礼拝: 保坂長老
配餐: 齋藤 坂田 保坂 相浦 茨木 各長老
献金: 高橋 高橋 受付: 西尾 森本
会堂準備: 浅井 阿部 齋藤 山田
看板: 保坂 週報: 岩佐 お花: 森本

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・長老会
・会堂管理委員会・9月誕生者祝福

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

2023年 8月 27日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>